


生薬解説 143 さー6

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意		および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
さー6	さんざし 山楂子	酸・甘・微温 脾・胃・肝	
中医生薬解説			
 <p>サンザシの成熟果実</p>		<p>消食化積 食積特に油膩肉積による腹満、腹痛、下痢、あるいは小児の傷乳による下痢に、単味で、あるいは麦芽・神麴・萊菔子などと用いる「保和丸」。</p> <p>止痢 細菌性下痢に、炒炭して単味の粉末を冲服する。</p> <p>破氣化瘀 産後瘀阻による腹痛、悪露の停滞あるいは血瘀の月経痛などに、当帰・川芎・益母草などと用いる。</p> <p>消脹散結 疝氣（ヘルニアなど）の下腹部の張った痛み、陰囊腫大などに、橘核・小茴香などと用いる。</p> <p>その他 活血疏肌、透疹に働くので、麻疹の初期や透疹が不十分なときに用いる。</p>	
参考		炒用（ 炒山楂 ）すると消食に、炒炭（ 山楂炭 ）すると止痢、化瘀に、生用（ 生山楂 ）すると透疹に、それぞれ働く。	